

**令和元年度  
伊勢市わがまち写真コンクール  
入賞作品集**



令和元年度「伊勢市わがまち写真コンクール」入賞作品

【最優秀賞】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
—	—	門 谷 若 次	河崎の天王祭	伊勢市河崎

【優秀賞】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
—	—	上 田 あ り さ	忘れ得ぬ	矢持 炭焼き小屋跡
—	—	土 居 実 名 子	大注連縄	二見興玉神社
—	—	山 口 一 明	神宮神田	伊勢市楠部町

【入選】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
—	—	青 嶋 秀 雄	宮川橋梁～ 真夏の夕暮れに訪れた静寂	宮川河川敷 (山田上口側)
—	—	城 山 綾 乃	松と空のコントラスト	二見浦
市立港中学校	3年	中 川 真 夕 菜	夏の空と勢田川	田尻町
—	—	中 世 古 健 吾	夕闇のおはらい町	伊勢市宇治中之切町のおはらい町通り
—	—	濱 瀬 悦 生	朝霧に咲く	朝熊岳金剛證寺
—	—	村 田 耕 一	晩秋の貯木池	八日市場町
—	—	山 口 な お み	世古道	五十鈴川
—	—	山 下 和 宏	懐かしの駅舎	JR参宮線山田上口駅
英心高校	3年	吉 村 果 恋	麦の声	伊勢市小俣町
宇治山田商業高校	1年	畑 野 陸	親子のかたちを芸術で	伊勢市神宮徴古館



## 令和元年度「伊勢市わがまち写真コンクール」入賞作品集

### (総評)

今年の写真コンクールには昨年の2倍もの応募がありました。デジタルカメラやスマートフォンなどで誰もが気軽に写真を撮れるようになったこともその一因でしょうが、同時に市のスタッフ、関係者の皆様のご努力によるところが大きいと思います。多数の応募作品の中から入賞、入選を選ぶのは大変でしたが、秀作、力作が数多くあり、楽しく選考させていただきました。

市展や県展はじめ多くの写真コンテストは写真の内容に制限はありませんが、このコンクールの審査要領には、「市内の好きな風景（自然風景、まちなみ、昔ながらの建物など）」という「テーマ」が設定されています。さらに、その風景を撮ることによって「景観に親しみを持ち、大切に気づき、新たに発見してもらうこと」が目的とされています。そしてそのために「表現に工夫がされていること」が求められているのです。

写真というのは目の前の事実や出来事をカメラという機械が写し撮るものですから、客観的な記録と思われがちですが、上記の審査要領は写真をただ単に「記録」ということで終わらせるのではなく、撮影行動や写された作品を通して「景観に親しみを持ち、大切に気づき、新たに発見」することが要請されています。つまり写真は単なる記録を超えた何ものかであるということ、言い換えれば写真は記録であると同時に作者の考えや思いを表現し、そのことによって現実をより深く認識するという側面があるということが述べられているのです。

それだけではありません。上記審査要領の主意は、風景を単に写真の対象として見るのではなく、撮影することによって作者自身が（写真を見る人も）対象から教えられる（大切に気づき、新たに発見する）ということが書かれています。つまり写真を撮る作者と写真に撮られる対象（風景、景観）とが相互に関係しあっているという、写真にとってとても大切なことが指摘されているのです。

審査要領のこうした記述から、この「写真コンクール」が普通の写真コンテストとは異なることがわかりますが、今回最優秀賞および優秀賞に選ばれた写真からそのこと（写真は記録であると同時に自己表現でもあり、また現実を認識するための手段であるということ）について、そしてそれぞれの作品にどのような「表現の工夫」がなされているかを考えてみましょう。

中西 篤行

## 【最優秀賞】



### 河崎の天王祭

門谷 若次

(撮影場所)

伊勢市河崎

(撮影理由・想い)

勢田川の水中金魚花火はなにか情緒があり、昔から人気があります。  
この日も勢田川の両岸には観客が一杯、中橋からもこの様な人だかりでした。

#### (選評)

河崎の天王祭は河邊七種神社の祭礼ですが、門谷さんはこのお祭りのフィナーレを飾る水中金魚花火を見事な構図で見せてくれています。空中に立ち昇る花火とその煙、橋の上で歓声をあげながらそれを見物する人々、水面に映る花火の光と一艘の小舟、この祭りのクライマックスがこの一枚の写真からしっかりと伝わってきます。

総評で述べた記録と表現ということでこの写真を見てみることにしましょう。まずこの写真が「河崎の天王祭」の記録であることは誰にもわかりませんが、門谷さんの「表現の工夫」はどこにあるのでしょうか。まず、あらかじめこの構図を想定して撮影場所を選んだこと、そして花火と煙がドラマチックに写るシャッターチャンスを選んだこと(おそらく何枚もシャッターを切ったことでしょう)、そして橋上の人々の動きや橋の下の小舟などにも十分な注意が払われていることが分かります。写真が記録であると同時に撮影者の自己表現でもあることが門谷さんの写真から見てとれるのではないのでしょうか。

【優秀賞】

	忘れ得ぬ
	上田 ありさ
	(撮影場所) 矢持 炭焼き小屋跡
	(撮影理由・想い) 忘れ得ぬ とは、決して忘れない という意味です。本当はすぐ近く に水車小屋もあったのですが知 らぬ間に取り壊されていて少し 悲しかったのを覚えています。幼 い頃、よく遊んでいた場所が少し ずつなくなっていくのは寂しい ですね。だからこそ、写真という ものが出来たのでしょう。思い出 の場所は、いつでも手の中に。

(選評)

使われなくなった二棟の炭焼き小屋が、ぼんやりと霧のかかったような空気の中で写されています。上田さんのコメントを読むと、「忘れ得ぬ」というタイトルの語句を「決して忘れない」という作者自身の強い意志の表明と解してこの写真を撮っておられることが分かります。時代の流れの中で決して忘れてはならないもの、それを残すのも写真の大切な仕事、という上田さんの写真についての考え方にも共感できます。「幼い頃、よく遊んでいた場所が少しずつなくなっていく」寂しさがこのぼんやりとした空気感の描写に込められているかのようです。そこに上田さんの「表現の工夫」が感じ取れます。その表現によってこの写真は、使われなくなった炭焼き小屋を記録しただけでなく、それに対する上田さん自身の哀惜の念が込められていることがわかれると思います。

【優秀賞】



大注連縄

土居 実名子

(撮影場所)

二見興玉神社

(撮影理由・想い)

観光客の方がよく写真で目にする遠目の夫婦岩とはまた違う、大注連縄張神事が行われてすぐの大しめ縄の迫力を少しでも伝えられたらと思い撮影しました。


(選評)

土居さんは、コメントに書いておられるように、「よく写真で目にする夫婦岩」とは違うアングルを探し出し、夫婦岩の大注連縄を独自の視点で捉えました。その結果「よく目にする」横に広がった大注連縄が縦方向に描写されその存在感が強調されています。

他人とは違う作者独自の視点を発見するためにカメラポジションやカメラアングルやフレーミングを変えて撮る、これは基本的な、そして極めて大切な「表現の工夫」の一つです。こうした撮影の工夫が、写真を単なる記録に終わらせることなく、作者の自己表現につながっていくのです。土居さんの「大注連縄」はそのことを教えてくれています。これからも既成の表現や概念にとらわれず、自分自身の視点を創造する工夫を続けていってほしいと思います。それは必ず秀作を生むことにつながると思います。




【優秀賞】


	神宮神田
	山口 一明
	(撮影場所) 伊勢市楠部町
	(撮影理由・想い) 伊勢神宮に奉納するお米を作る神田で、神田御田植初が5月に行われますが作業が始まる前、神田への綺麗な写りこみに思わずシャッターをきりました。


(選評)


山口さんのコメントには、御田植えの「作業が始まる前、神田への綺麗なうつりこみに思わずシャッターをきりました」とあります。毎年行われる祭りや行事などは「定番の場面」があらかじめ予測できるのでそれを狙って撮影しがちですが、山口さんは祭のクライマックスを撮るのではなく（もちろんそれも撮ったでしょうが）、現場で心を動かされたこの光景に思わずシャッターを切りました。その結果、行事が始まる前の清新で厳かな佇まいが表現され、「定番の」御田植祭りとは一味違った写真になりました。さらによく見ると画面右端に出番を待つ早乙女が写っていますが、その赤い装束が画面にアクセントを与えています。御田植えの行事が始まれば、さざ波さえも立っていないこの平穏な神田に赤い装束の早乙女たちが膝まで浸かって作業をするので、その姿さえ想像させてくれます。山口さんの「神宮神田」は、誰もが撮るような場面ではなく、現場で心を動かされた光景に素直に反応したところが秀作を生んだ要因だったと思います。


【入選】


	<p>宮川橋梁～ 真夏の夕暮れに訪れた静寂</p>
	<p>青嶋 秀雄</p>
	<p>(撮影場所) 宮川河川敷 (山田上口側)</p>
	<p>(撮影理由・想い) 宮川橋梁はかつての「宮川の渡し」付近にあるJR参宮線の橋梁です。1897年に建造され、国鉄時代から活躍し続ける立派なプラットラス橋です。伊勢市の誇る鉄道建築物として内外にアピールし、近代文化遺産に指定していただければなあと思います！</p>


	<p>松と空のコントラスト</p>
	<p>城山 綾乃</p>
	<p>(撮影場所) 二見浦</p>
	<p>(撮影理由・想い) 二見浦といえば海もちろんきれいです、松と空の緑と青がとてもきれいな散歩道だなと思いました。</p>


	<p>夏の空と勢田川</p>
	<p>中川 真夕菜</p>
	<p>(撮影場所) 田尻町</p>
	<p>(撮影理由・想い) 青空と雲に夏の強さを感じたから。</p>


	<h2>夕闇のおはらい町</h2>
	<p>中世古 健吾</p>
	<p>(撮影場所) 伊勢市宇治中之切町のおはらい町通り</p>
	<p>(撮影理由・想い) 昼間は大勢の観光客で人通りが多く賑わう内宮近くのおはらい町。陽が西に沈み通りの店が閉まる頃に成ると静まり返り街並が夜陰に映り一変する！</p>


	<h2>朝霧に咲く</h2>
	<p>濱瀬 悦生</p>
	<p>(撮影場所) 朝熊岳金剛證寺</p>
	<p>(撮影理由・想い) 早朝、朝熊岳金剛證寺に赴き、池一面に咲く水蓮と朱色の太鼓橋。そして、朝霧の幽玄な情景を切り取りました。境内の雰囲気に心洗われます。</p>

	<h2>晩秋の貯木池</h2>
	<p>村田 耕一</p>
	<p>(撮影場所) 八日市場町</p>
	<p>(撮影理由・想い) 今では見なくなった貯木池。大工の私には無くなってほしくない風景。</p>

	<h2>世古道</h2>
	<p>山口 なおみ</p>
	<p>(撮影場所) 五十鈴川</p>
	<p>(撮影理由・想い) 世古を歩く後ろ姿がかわいくて。</p>

	<h2>懐かしの駅舎</h2>
	<p>山下 和宏</p>
	<p>(撮影場所) JR 参宮線山田上口駅</p>
	<p>(撮影理由・想い) 2018年の台風で屋根が破損し、応急修理のブルーシートが痛々しい姿ですが、この後取り壊されて見納めとなってしまいました。昭和の雰囲気を漂わせながらもモダンな感じの駅舎でした。</p>

	<h2>麦の声</h2>
	<p>吉村 果恋</p>
	<p>(撮影場所) 伊勢市小俣町</p>
	<p>(撮影理由・想い) 自分の将来を考え、自信をなくして歩いている時、視線を下げると安心できる優しい風と音を感じた。</p>

	<h2>親子のかたちを芸術で</h2>
	<p>畑野 陸</p>
	<p>(撮影場所) 伊勢市神宮徴古館</p>
	<p>(撮影理由・想い) 木陰にひっそりとある、親子の像を見ていると穏やかになれました。</p>